



令和5年9月15日

備前長船刀剣博物館	
担当者	主査（学芸員） 杉原賢治
電話番号	0869-66-7767（直通）

秋季特別展「赤羽刀とたどる戦後の刀剣史」を開催します

平素は、備前長船刀剣博物館に格別のご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、備前長船刀剣博物館では、令和5年9月16日から秋季特別展「赤羽刀とたどる戦後の刀剣史」を下記のとおり開催します。

開催情報については、当館ホームページ（<https://www.city.setouchi.lg.jp/site/token>）にて随時発信してまいりますのでご確認ください。

記

- 1 展示会名 秋季特別展「赤羽刀とたどる戦後の刀剣史」
- 2 開催期間 前期：令和5年9月16日（土）～令和5年10月9日（月・祝）
後期：令和5年10月14日（土）～令和5年11月19日（日）
※前期・後期で展示刀剣が変わります
（令和5年10月10日（火）～令和5年10月13日（金）展示替臨時休館）
- 3 開催場所 備前長船刀剣博物館（瀬戸内市長船町長船 966）
- 4 展示内容 本展は、赤羽刀を含む接收刀剣のうち一部が、どのような努力で現在まで残されることになったのか、その歴史をたどるとともに、刀剣所持を認める現在の登録審査制度につながる経緯を紹介します。
また、本展では文化庁所蔵の名刀で名高い正宗や、新藤五国光、井上真改、清麿や堀川国広など名工が作った一級品の赤羽刀を10年ぶりに借用し、前期・後期の2回に分け展示します。
- 5 その他
 - ・1時間40名の事前予約制です。
 - 予約は、備前長船刀剣博物館ホームページ上にある備前長船刀剣博物館来館予約サイト（<https://setouchi-city-yoyaku.net/>）にて受付。
 - ・取材の際は、事前に連絡願います。

戦後の刀剣史

赤羽刀とたどる

令和5年度秋季特別展

宇都宮大明神

前期 令和5年

9.16_土 - 10.9_{祝月}

後期 令和5年

10.14_土 - 11.19_日

備前長船刀剣博物館
(岡山県瀬戸内市長船町長船966)

※前期・後期で展示刀剣が変わります
(令和5年10月10日(火)~10月13日(金)展示替え臨時休館)
※休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日が休館日)

展示作品

前期

太刀 銘 宗忠 文化庁所蔵
太刀 銘 康光 文化庁所蔵
刀 銘 井上真改/
(菊紋)延宝六年八月日 文化庁所蔵

後期

短刀 銘 正宗 文化庁所蔵
短刀 銘 国光(新藤五) 文化庁所蔵
刀 銘 長曾祢興正 文化庁所蔵
脇指 銘 源清磨 文化庁所蔵

文化庁及び備前長船刀剣博物館所蔵の赤羽刀を前期・後期の会期に分けてそれぞれ40点程度展示

短刀 銘 正宗 国(文化庁保管)

入館料/一般800(700)円、高大生500円、中学生以下無料
※()は20名以上の団体料金
※障がい者手帳等の持参者及び付き添い1名まで無料

問合せ先/備前長船刀剣博物館
電話/0869-66-7767 FAX/0869-66-7971
ホームページ/<https://www.city.setouchi.lg.jp/site/token/>
主催/瀬戸内市、備前長船刀剣博物館
後援/FM岡山・KSB瀬戸内海放送・NHK岡山放送局
OHK岡山放送・RNC西日本放送・RSK山陽放送
TSCテレビせとうち・山陽新聞社・レディオモモ



令和5年度 秋季特別展「赤羽刀でたどる戦後の刀剣史」 前期

前期：令和5年9月16日（土）～10月9日（月・祝）／後期：令和5年10月14日（土）～11月19日（日）

この度、「赤羽刀とたどる戦後の刀剣史」と題して秋季特別展を開催いたしました。

太平洋戦争で敗戦国となった日本では、GHQの指令の下、全国各地で武装解除を目的に刀剣類が接収されました。接収された刀剣類（接収刀剣）は、全て廃棄される運命でしたが、国立博物館の刀剣担当職員や有識者をはじめ多くの国民が、刀剣は武器ではなく美術品であることを強く訴えたことにより、登録制度のもと一部が持ち主へと返されました。しかしながら、接収時期は、戦後の混乱期でもあったことから、接収刀剣の多くは処分されてしまいました。

東京都を中心とした関東一円では、約20万口と言われる大量の接収された刀剣が赤羽に集められました。それら集められた接収刀剣の中で、持ち主不明となった刀剣は、処分対象になりながらも一時的に保管され、後に有識者により一部の美術的価値のあるものは、後世に刀剣の文化を伝えるための資料として保存されました。資料として保存された刀剣は、「赤羽刀」と呼ばれ、現在は国や全国各地の公立博物館等で、刀剣文化を伝えるとともに、歴史を伝える資料として活用されています。

今回の展示では、接収刀剣のうち一部がどのような努力で現在まで残されることになったのか、その歴史をたどるとともに、現在の登録審査制度につながる経緯を紹介します。また、赤羽刀を例に、未来に向けた刀剣の保存・活用を考察する展示を行いますので、戦争が国の文化や歴史遺産に与える影響について考えるきっかけとなれば幸いです。

最後に、ご協力頂いた方々ならびに本日も来館頂いた皆様方にお礼を申し上げてご挨拶といたします。

備前長船刀剣博物館館長 塩田 勇

<前期>

No.	資料名〔表銘／裏銘〕	刃長(cm) 反り(cm)	時代／所蔵／指定
1	刀 銘 備前長船住横山俊左衛門藤原祐包 天王原八幡宮於 神前作之／慶応二年八月日 友成五十八代孫	69.0 1.1	江戸末期（1866年） 備前長船刀剣博物館蔵
2	刀 銘 備前介藤原宗次／慶応元年五月日	74.5 2.0	江戸末期（1865年） 文化庁蔵
3	脇指 銘 横山加賀介藤原朝臣祐永 天保十一年八月日／ （菊紋）一備前長船住	53.5 1.5	江戸末期（1840年） 備前長船刀剣博物館蔵
4	槍 銘 備前長船住祐直祐恒作／天保七年二月日	45.4 なし	江戸末期（1836年） 備前長船刀剣博物館蔵
5	刀 銘 伯耆守平朝臣正幸／行年七十歳造 享和二年戊二月	71.1 2.1	江戸末期（1802年） 文化庁蔵
6	脇指 銘 丹波守吉道／（菊紋）	54.5 1.7	江戸末期（18世紀） 備前長船刀剣博物館蔵
7	脇指 銘 丹波守吉道	50.1 1.6	江戸中期～末期（18世紀） 備前長船刀剣博物館蔵
8	槍 銘 摂津国東成郡住人小林河内守國助生年三十四才作之 ／元禄九丙子年二月吉日	53.2 なし	江戸中期（1696年） 文化庁蔵
9	刀 銘 （菊紋）法城寺越前守橘正照／八幡大菩薩堀口勝武 好之 元禄二年己巳九月下旬	69.0 1.8	江戸中期（1689年） 文化庁蔵
10	刀 銘 井上真改／（菊紋）延宝六年八月日	66.4 1.4	江戸中期（1678年） 文化庁蔵
11	脇指 銘 横山上野大掾藤原祐定／備州長船住人	54.8 0.8	江戸初期～中期（17～18世紀） 備前長船刀剣博物館蔵
12	刀 銘 備前国（以下切れ）〔切付〕立袈裟立胴籠都留倍／ 唐竹肩與利腰満傳毛	68.0 1.3	江戸初期（17～18世紀） 備前長船刀剣博物館蔵
13	刀 銘 山城守藤原國包	75.2 1.7	江戸初期（17世紀） 文化庁蔵

14	刀	銘	陸奥大掾三善長道	73.3 1.2	江戸初期 (17世紀) 文化庁蔵
15	刀	銘	(葵紋)以南蛮鉄於武州江戸越前康継／江陽素産高田亀助	71.0 1.8	安土・桃山期 (16世紀) 文化庁蔵
16	刀	銘	洛陽住信濃守國広	72.0 1.2	安土・桃山期 (16世紀) 文化庁蔵
17	刀	銘	飛驒守藤原氏房	75.7 2.1	安土・桃山期 (16世紀) 文化庁蔵
18	脇指	無銘		50.9 1.1	室町末期 (16世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
19	太刀	銘	平長盛	65.4 1.6	室町末期 (15~16世紀) 文化庁蔵
20	槍	銘	備前国住藤原春光作／文禄五年三月吉日	74.0 なし	安土・桃山期 (1596年) 備前長船刀剣博物館蔵
21	刀	銘	濃州岐阜住兼綱作／天正七年八月吉日	74.6 2.2	室町末期 (1579年) 文化庁蔵
22	刀	銘	備州長船祐定／永六七年八月 (以下切れ)	63.4 2.2	室町末期 (1564年) 備前長船刀剣博物館蔵
23	刀	銘	備前国住長船清光作／永禄二年八月日	70.4 2.7	室町末期 (1559年) 備前長船刀剣博物館蔵
24	刀	銘	備州長船法光／永正二年八月日	68.6 1.4	室町末期 (1505年) 備前長船刀剣博物館蔵
25	刀	銘	相州住広次作／永正元年八月日	66.7 1.9	室町末期 (1504年) 文化庁蔵
26	脇指	銘	備州長船忠光／明応十年二月日	55.5 1.3	室町末期 (1501年) 備前長船刀剣博物館蔵
27	刀	銘	作州住宗光／明応二二年八月吉日	66.0 1.9	室町末期 (1495年) 文化庁蔵
28	脇指	銘	備州長船勝光／文明十年二月日	52.2 1.4	室町末期 (1478年) 備前長船刀剣博物館蔵
29	脇指	銘	〔折返〕備州長船則光	48.6 1.1	室町中期 (15世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
30	小太刀	銘	平安城住吉則作五拾九歳／〔切付〕随寅	60.2 1.9	室町中期 (15世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
31	太刀	銘	備州長船秀景／享徳二二年三月日	65.0 2.0	室町初期 (1455年?) 備前長船刀剣博物館蔵
32	脇指	銘	備州長船康光／応永十八年十月日	45.9 1.0	室町初期 (1411年) 備前長船刀剣博物館蔵
33	太刀	銘	家助	68.2 1.9	室町初期 (14世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
34	太刀	銘	康光	73.0 2.6	室町初期 (14世紀) 文化庁蔵
35	太刀	銘	備前国長船 (以下不明)／不動□□十年□ (以下不明)	68.4 1.6	南北朝期 (14世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
36	長巻直し脇指	銘	〔切付〕寛延庚午上之 末包時亮帶焉	55.8 2.1	南北朝期 (14世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
37	薙刀	銘	一若狭国住定吉／南無阿弥陀仏 観応二年二月日	79.4 2.8	南北朝期 (1351年) 文化庁蔵
38	太刀	銘	備州長船義光	71.6 1.9	鎌倉末期 (14世紀) 文化庁蔵
39	太刀	銘	國宗	82.1 2.9	鎌倉末期 (14世紀) 文化庁蔵
40	太刀	銘	宗忠	64.6 2.1	鎌倉初期 (13世紀) 文化庁蔵

令和5年度 秋季特別展「赤羽刀でたどる戦後の刀剣史」 後期

前期：令和5年9月16日（土）～10月9日（月・祝）／後期：令和5年10月14日（土）～11月19日（日）

この度、「赤羽刀とたどる戦後の刀剣史」と題して秋季特別展を開催いたしました。

太平洋戦争で敗戦国となった日本では、GHQの指令の下、全国各地で武装解除を目的に刀剣類が接収されました。接収された刀剣類（接収刀剣）は、全て廃棄される運命でしたが、国立博物館の刀剣担当職員や有識者をはじめ多くの国民が、刀剣は武器ではなく美術品であることを強く訴えたことにより、登録制度のもと一部が持ち主へと返されました。しかしながら、接収時期は、戦後の混乱期でもあったことから、接収刀剣の多くは処分されてしまいました。

東京都を中心とした関東一円では、約20万口と言われる大量の接収された刀剣が赤羽に集められました。それら集められた接収刀剣の中で、持ち主不明となった刀剣は、処分対象になりながらも一時的に保管され、後に有識者により一部の美術的価値のあるものは、後世に刀剣の文化を伝えるための資料として保存されました。資料として保存された刀剣は、「赤羽刀」と呼ばれ、現在は国や全国各地の公立博物館等で、刀剣文化を伝えるとともに、歴史を伝える資料として活用されています。

今回の展示では、接収刀剣のうち一部がどのような努力で現在まで残されることになったのか、その歴史をたどるとともに、現在の登録審査制度につながる経緯を紹介します。また、赤羽刀を例に、未来に向けた刀剣の保存・活用を考察する展示を行いますので、戦争が国の文化や歴史遺産に与える影響について考えるきっかけとなれば幸いです。

最後に、ご協力頂いた方々ならびに本日も来館頂いた皆様方にお礼を申し上げてご挨拶いたします。

備前長船刀剣博物館館長 塩田 勇

<後期>

No.	資料名〔表銘／裏銘〕	刃長(cm) 反り(cm)	時代／所蔵／指定
1	脇指 銘 源清麿	41.7 0.5	江戸末期（18～19世紀） 文化庁蔵
2	槍 銘 備前長船住横山祐直作／慶応二年二月日	37.7 なし	江戸末期（1866年） 備前長船刀剣博物館蔵
3	刀 銘 備前長船住横山澤之助高平／天保二二年二月日	66.0 1.4	江戸末期（1833年） 備前長船刀剣博物館蔵
4	脇指 銘 丹波守嫡子吉道／寛政五年二月日	51.1 1.1	江戸末期（1793年） 備前長船刀剣博物館蔵
5	脇指 銘 吉道	39.2 0.6	江戸中期～末期（17～18世紀） 文化庁蔵
6	刀 銘 長曾祢興正	70.2 1.7	江戸中期（18世紀） 文化庁蔵
7	刀 無銘 （伝 水田国重）	72.7 1.9	江戸中期（18世紀） 備前長船刀剣博物館蔵
8	脇指 銘 （葵紋）越前康継作之／以南蠻鐵	49.6 0.8	江戸中期（17世紀） 備前長船刀剣博物館蔵
9	刀 銘 肥前国近江大掾藤原忠吉	73.6 1.6	江戸中期（17世紀） 文化庁蔵
10	脇指 銘 山城国住藤原信吉	56.1 1.5	江戸初期（17世紀） 備前長船刀剣博物館蔵
11	脇指 銘 肥州 播磨入道藤原休鉄 嫡子播磨守藤原忠國／ （牡丹）（菊紋）以阿蘭陀鍛作	51.0 1.3	江戸初期（17世紀） 文化庁蔵
12	刀 銘 備前岡山住國宗	66.9 1.4	江戸初期（17世紀） 備前長船刀剣博物館蔵
13	刀 銘 近江守高木住助直作／延宝五年三月日	70.5 1.4	江戸初期（1677年） 文化庁蔵

14	刀	銘	但馬守法城寺橋貞國／(金象嵌)寛文六年五月十九日 貳ツ胴切落 山野勘十郎久英 (花押)	71.0 1.1	江戸初期 (1666 年) 文化庁蔵
15	脇指	銘	備前国住長船七兵衛尉祐定作／万治三年八月日	55.0 1.0	江戸初期 (1660 年) 備前長船刀剣博物館蔵
16	刀	銘	於南紀重國造之	71.1 1.4	安土・桃山期 (16 世紀) 文化庁蔵
17	脇指	銘	伊賀守金道	41.6 0.9	安土・桃山期 (16 世紀) 文化庁蔵
18	刀	無銘	末手搔	63.5 2.0	室町末期 (16 世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
19	刀	無銘	平高田	70.3 1.8	室町末期 (16 世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
20	脇指	銘	旅泊	44.4 0.5	室町末期 (16 世紀) 文化庁蔵
21	刀	無銘	(伝 長船清光)	65.6 2.0	室町末期 (16 世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
22	刀	銘	正重作	63.4 3.0	室町末期 (16 世紀) 文化庁蔵
23	脇指	銘	〔金象嵌〕ニツ胴土壇拂 切手村井三郎右衛門 長昭 (花押)	54.7 1.7	室町末期 (16 世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
24	薙刀	銘	出羽国之住人月山近則／永正二年二月日	53.2 2.7	室町末期 (1505 年) 文化庁蔵
25	刀	銘	美作国宗光作之／□ (永) 正元年十一月吉日	63.0 1.4	室町末期 (1504 年) 備前長船刀剣博物館蔵
26	刀	銘	備州長船祐定／明応十年八月日	64.8 2.3	室町末期 (1501 年) 文化庁蔵
27	刀	銘	備州長船 (以下切れ) / 康□ (正) 元年 (以下切れ)	73.3 1.6	室町中期 (15 世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
28	太刀	銘	盛光	73.0 2.4	室町初期~中期(14~15 世紀?) 文化庁蔵
29	刀	銘	清則	69.8 1.6	室町初期~中期(14~15 世紀) 文化庁蔵
30	太刀	銘	備州長船祐光／文安三年二月日	71.8 1.9	室町初期~中期 (1466 年) 備前長船刀剣博物館蔵
31	薙刀	銘	備州長船秀景／永享九年八月日	62.3 2.1	室町初期~中期 (1437 年) 備前長船刀剣博物館蔵
32	太刀	銘	(朱銘) 青江長次／光遜 (花押)	74.5 1.8	南北朝期 (14 世紀) 文化庁蔵
33	刀	無銘	(伝 兼長)	72.6 1.5	南北朝期 (14 世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
34	太刀	銘	備／〔折返〕州長船住重真	71.9 2.4	南北朝期 (14 世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
35	短刀	銘	國光	25.7 内反り	鎌倉末期 (14 世紀) 文化庁蔵
36	太刀	銘	備前国長船住長□ (元) 作	71.2 1.7	鎌倉末期 (14 世紀) 文化庁蔵
37	太刀	銘	則房	69.0 2.0	鎌倉中期 (13 世紀) 文化庁蔵
38	太刀	銘	吉房	70.5 1.4	鎌倉中期 (13 世紀) 備前長船刀剣博物館蔵
39	太刀	銘	定利	78.1 3.2	鎌倉初期 (13 世紀) 文化庁蔵
40	短刀	銘	正宗	27.0 0.1	鎌倉末期 (14 世紀) 文化庁蔵

